

3. 2020 年度学習内容報告書_松本市立波田小学校

学校名	松本市立波田小学校
授業者	小林利章

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

川の果てまで行ってみよう

1-2. 学年

3 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

梓川に親しむ活動を通して、自ら課題を持ち、友と共に対象への思いを深める子どもを育成する。

子どもたちの身近にあり、子どもたちの関心もある梓川に親しんでいく中で、出てきた疑問や友達の疑問をみんなで調べたり考えたりして学習をすすめる。

①波田地区の梓川体験 ②まとめ ③解決したい問題ややってみよう活動を出し合う。

④解決策を考える。 ⑤調べ活動や梓川体験、外部講師の講演などを行う。

⑥梓川について学んだことを、おうちの人に発表する。

※探求的な学習を協働的にしていく（友達や外部講師の方などとの交流など）ことで、友と共に対象（梓川）への思いを深めていってほしい。（思いをもつから思いを深めるへ）

1-5. 単元設定の理由・ねらい

はじめは「海洋教育とは何か。」というところから研究がスタートした。「海洋教育」というと「海」に関する学習が浮かぶが、海に面していない松本市では何ができるだろうか。そう考えた時、海は山や森、川とつながっていることから、身近な川（梓川）を教材化できるのではないかと考えた。

松本市海洋教育パイオニアスクールプログラム事業では、「各校の特色を生かした海洋教育に取り組みながら、松本らしい学びを自ら探求していく子どもの育成を図る」ことを趣旨としている。「自ら探求していく子どもの育成」という点は、「総合的な学習の時間の目標」とも合致している。本校の「総合的な学習の時間」における子どもたちの姿として、与えられた課題には、ねばり強く追究することができるが、自ら課題を持ったり自分から発信したりすることには苦手意識がある。また、体験活動では積極的に活動できるが、体験どまりになりがちで、友と共に対象への思いを深める活動までいたっていないこともある。

そこで、子どもたちの身近にあり子どもたちの関心もある梓川を教材化し、梓川に親しんでいく中で出てきた疑問や友達の疑問をみんなで調べたり考えたりして学習をすすめることで、自ら課題を持って意欲的に活動に取り組み、対象への思いも深めることができるのではないかと考えた。

1-6. 育みたい資質や能力, 態度

<p>(1) 【課題の設定】 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予想を立てて体験し、体験したことからの気づきや疑問を学習カードに書いて発表し合う。 ・ 話し合いを通して個別の疑問を集団の疑問にしながらグループや学級の課題として高めていく。 <p>(2) 【情報の収集】 必要な情報を取り出したり収集したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師の方からの情報収集 (映像資料、現地での体験での質問など) ・ 友達や身近にいる大人に教えてもらう。・実際に川に行って情報収集する。 ・ 書籍やインターネットなどからの情報収集 (自分で調べることが難しい場合は教師が事前に用意しておく。) <p>(3) 【整理・分析】 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模造紙などに課題の種類ごとに色分けして書く。 <p>(4) 【まとめ・表現】 気づきや発見, 自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の活動の振り返りや友達との交流を通してさらに知りたいことややってみようことを考える。
--

1-7. 単元の展開 (全30時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	① 第1回 梓川へ行ってみよう! ② 第1回のまとめをしよう!	気がついたことなどを記録させる。 子どもたちから出た意見を、カテゴリーに分けて模造紙にまとめる。
3	③ 第2回 梓川へ行ってみよう! ④ 第2回のまとめをしよう!	前回の体験を通して、興味をもったものに関してより注意深く観察するように促す。 カテゴリーごとに、子どもたちにまとめさせる。
4	⑤ 第3回梓川へ行ってみよう! ⑥ 第3回のまとめをしよう!	梓川ビオトープ観察 ワークシートに気がついたことをまとめさせる。
2	⑦ 3回の体験を通して、みんなで解決したい問題をまとめよう。さらに、やってみよう活動について意見を出し合おう。 ⑧ どんなふうに調べたら、解決できるか考えてみよう。	子どもたちから出てきた課題を、カテゴリーごとに色分けして、模造紙にまとめる。 子どもたちに、調べ方について考えさせる。

10	<p>⑨ 本や図かんを使って、調べてみよう！</p> <p>⑩ 実際に梓川にもう一回いってみよう！</p> <p>⑪ 外部の方の力を借りて、体験しよう！</p>	<p>子どもたちが意欲的に調べ学習ができるように、様々な調べ方について認める。</p> <p>4つにしぼった解決したい問題（石、動植物、梓川の具体、川はどこからくるのかについてのこと）を、ひとつずつクリアしていくよう、状況に応じて、必要な情報を提示する。記録をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大河の一滴スライド鑑賞 ・上高地源流へ調べ学習
8	<p>⑫ 他の川について調べる</p> <p>⑬ 梓川について学んだことを、おうちの人に発表しよう</p> <p>⑭ 梓川の果てがどうなっているのか調べる</p>	<p>梓川の源流見学をした子どもたちが、次なる課題として何を考えるか、子どもたちの意見を参考にして次の学習を進めていく。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

大河の一滴プロジェクト（梓川の源流を知るスライド）を見た子どもたちが、地図や写真で川の果てを想像・予想することを通して、課題を明確にし、上高地源流見学への思いを深めることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. 大河の一滴プロジェクトのスライドショーを見た感想を伝えあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ じっさいに行ってみたいと思った！ ・ 上高地の写真がきれいだった ・ 予想が当たっていた！ ・ 梓川は、いろいろな川がつながっていることが分かった。 ・ 梓川の始めと終わりが分かって良かった。 <p>2. 9月15日に、上高地の源流見学に行くということを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やったー！本物を見に行きたい！ ・ どうなっているのかな？ ・ 寒いかな？ <p>3. 上高地に行ってみて、体験したいことはあるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水のきれいさはどうかな？ ・ 水の温度はどうかな？ ・ 河原の様子はどうかな？ ・ 川の生き物はどうかな？ <p>4. 波田の梓川とくらべて、どうなっているか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水の量は梓川のほうが多いかな？ ・ 水は、上高地の方がはやいよ！ ・ 温度は、梓川のほうがつめたいんじゃないかな？ ・ 石は、梓川の方が小さいんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大河の一滴プロジェクトのスライドショーの時の写真や、大きな地図を掲示して、思い出したり、位置関係を捉えたりさせる。 ○ スライドショーの内容によって、事前に知っている場合もあるが、改めて実際に見学できるということを伝える。 ○ 今までの探険の経験や、地図、パワーポイントを考える材料にさせる。 ○ ワークシートには、体験したいことと、予想を両方書けるように準備する。 ○ 梓川と上高地を「くらべる」をキーワードにして、予想を立てさせる。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 上高地には生き物はいないだろう。 <p>5. 発表し合う。 (4.の予想を出し合う。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 波田の梓川と源流ではどのような違いがあるか調べてみたい。 ・ 梓川の源流でいろいろ実際に触ってみたい。 	<p>○ 予想を立てた理由を聞くなどして、考えを深められるようにする。</p> <p>【評価】 上高地源流見学に向けて、自分にとっての課題を考えたり、考えようとしたりした。</p>
--	---

3. 今回の活動の自己評価

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図や写真を使いながら前時の「大河の一滴」のスライドショーをふりかえったことで、上高地源流見学への思いをもつことができた。 ・ 梓川と上高地を比べる学習カードを用意しそこに自分が体験したいことや予想を書いたことで、比べる対象が明確になり、上高地源流見学に向けての自分の課題を考えることにつながった。 ・ 何を見てくるのか、体験してくるのか、水だったら「温度」や「きれいさ」、生き物だったら「魚」、河原だったら「石の大きさ」「形」というように明確にできて良かった。 ・ グループで話し合ったり友だちの考えを聞き合ったりしたことで、自分の課題をもつことができた子もいてよかった。
--

4. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度はコロナ禍のため、地域へ出る機会が前年より減ってしまい、体験活動が思うように出来なかった。そのため、自然に対する興味関心や課題の醸成が昨年より不十分であるように感じた。子ども達が自然に興味関心や課題をもてるように、事前に十分地域に出かけ、自然に親しませることが必要である。 ・ 源流に比べ、波田地区の梓川が汚れていることから、どうして汚れてしまうのか、どうしたら水をきれいにできるのかなど、環境問題に目を向けて、具体的な調査活動や川をきれいにする活動につなげていきたい。 ・ 高学年の学習へ向けて、梓川が最終的に海とつながり、海の環境や生き物にも大きく関わることに気づくような視点の授業も入れたい。
--

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然観察や体験活動を行う際に、生き物の住んでいる場所を汚したり壊したりしないように十分指導しておく。
--